

当たり前じゃない、水のある暮らし

国分寺市立第三中学校

一年E組

歌川

綾

水は大切に使うべきだ、と私は思います。

なぜなら、水は限りある資源で、節約しなけ

ればいつか、使えなくなってしまうかもしれない

ないからです。

振り返ってみると、いろいろな場面で水を

無駄にしてみました。たとえば、手を洗った

いるときです。ハンドソープを使っている間

にも、水を出し続けてしまうことがあります。

そういうとき、私は「勿体ない」と思いませ

んぞでした。今、考えると自分勝手な行動だっ

たと思います。水を流し続けることを勿体な

く思うようになって、たのは、ごく最近のこと

です。

この作文を書いたことも理由の一つです。

ただ、先日、下水道館に行ったら、本

当

の理由でした。それは、東京都の小平市にあ

ります。すぐ近くには、玉川上水がありまし

た。下水道館には、そんな「水」についての
情報がたくさんあります。

下水道にはどのようなイメージがあります

か。私は、臭くて、汚くて、狭いイメージが

ありました。とにかくマイナスな印象です。

しかし、実際には私が想像しているものとは、

大きな違いがありました。まず、下水道官に

は人間が入れる、ということですよ。これには

ずいぶん驚きました。

次に、下水道はいいもので、人々の暮らし

を豊かにしてくれる存在だということですよ。

確かに独特なおいや色をしていました。が、

それは下水を処理するためです。下水道によ

って運ばれた汚水は、処理されて、きれいに

生まれ変わります。もし、下水道がなかった

なら、トイレの水やお風呂の水はどのような

しまうのでしょうか。きっと、処理されずに

残ってしまふと思います。

清潔で安全な水をいつまでも使っていていく

ためには、下水道は欠かせないものだとい

とです。

では、その下水道管が壊れてしまっ

変です。年が明けて間もない頃のニ

下水道管が破損し、道路が陥没したと報道し

ていました。そのニュースによると、穴に落

ちてしまった人を救助するため、下水道の

使用制限をかけたそうです。

あるいは、水道管であつても困ります。水

が運ばれなくなつてしまふからです。いつ、

水が使えなくなつてしまふかは分かりません。

十万人以上の人々が被害を受けた関東大震災

からは、およそ一〇〇年が経つています。い

つ、大きな地震が起きてもおかしくないと言

われています。あの地震と同じように、何

人もの人が被害を受けることになるかもしれ

ず、断水も起きてしまふかもしれません。

今、述べた二つの事例のようなことは、明

白に起きてしまふ可能性もあると思います。

そうなるのと、安全で普段通りの水は、飲めな

くなくなつてしまひます。日常的に水を粗末にし

ていては、緊急事態に困^ってしまふでしょう。

東京都の水や、日本の水は、多くの人の手
によ^って届きます。私は、せ^っかく頂いた水
道を適切に扱いたいと思^っています。決し
て今までのような、一蛇口をひねれば出てく
るから」という考えを持^ってはいけません。
深く反省します。

そして、し^っかりと水を節約して使^ってい
きたいと思います。そのために、まず、手
を洗^っているとき、こまめに蛇口を閉じます。

それから、水も食べ物と同じくらいありがた
く頂いていくべきだと思^いました。